

子どもたちは 笑顔で元気ですか？

～11月は児童虐待防止推進月間です～

増え続ける児童虐待。

テレビなどを通して、毎日のように耳にする虐待を受けた子どもたちの話。私たちは、あってはならないこの日常を、当たり前のように受け入れ、自分とは関係の無い話だと聞き流してはいないでしょうか。

少子高齢化の進展に伴い、生活スタイルによっては、子どもたちの姿を見ることが少なくなっている方が多いかもしれません。「もう子育ては終えて、夫婦で過ごすことが多い」、「もう孫も大きくなって、小さな子どもと接することは、ほぼない」など、自分たちの暮らしの中に子どもたちの姿は無くても、児童虐待を少しでも食い止めるためには、まずは、多くの人に関心をもっていただくことがとても大切です。

今号では、児童虐待の現状と私たちにできる関わり方をお知らせします。

止まらない『児童虐待』



新型コロナウイルスの感染拡大による

外出自粛などで虐待リスクが高まっていると言われていますが、全国各地では以前から保護者による虐待によって子どもたちが命を落としたり、重篤な状態に陥るなどの痛ましい事例が発生しています。

平成30年度の全国における児童虐待の相談対応件数は、平成29年度から2万件以上も増加するなど、統計を取り始めた平成2年から28年間増加し続けています。

『しつけ』と『体罰』は別物です



令和元年6月、児童虐待の防止等に関する法律が改正され、親権者による子どもたちへの『しつけ』と称した『体罰』

は、許されないものであることが法律で定められました。

体罰は、なぜ法律で禁止されるのでしょうか。

皆さんは、子どもが自分の言うことを

児童虐待相談対応件数

